

アメリカ合衆国の未臨界核実験実施に対する抗議文

アメリカ合衆国が、9月26日（現地時間）にネバダ州の地下核実験場で実施した未臨界核実験は、平和と核兵器廃絶を願うすべての国家、自治体、市民の意思に真っ向から挑戦する行為であり、極めて遺憾である。

ヒロシマ、ナガサキの惨禍から半世紀以上を経過した今もなお、多数の被爆者がその後遺症に苦しんでいる現実を直視し、人類の未来が破滅の方向に向かうことのないよう、核兵器を廃絶し、恒久平和を早急に実現することが、われわれに課せられた責務である。

ロアラモス国立研究所が担当した「ロッキー」と呼ばれる今回の実験について、アメリカ合衆国エネルギー省は、備蓄された核兵器の安全性と信頼性に関するデータ収集を目的とするものとしているが、イラクとの間の緊張関係が高まる中での実施だけに、核兵器をめぐる複雑な国際情勢を刺激し、世界が目指す核軍縮への潮流を停滞させる契機にもなりかねない。

本年8月に引き続き、アメリカ合衆国が通算19回目となる今回の未臨界核実験を実施したことに対し、非核都市宣言をしている三鷹市議会は、国際社会を深く失望させた未臨界核実験の実施に強く抗議するとともに、今後一切の核実験を停止し、21世紀を核兵器のない平和な世紀とするため努力することを強く要請するものである。

平成14年10月 1日

アメリカ合衆国大統領

ジョージ・W・ブッシュ 殿

三鷹市議会議長 吉野 博明